

# 平成 29 年度全国高校総合体育大会バドミントン競技和歌山県予選会

於 和歌山県立新宮高等学校

6月3日(土) 男子団体1回戦 対 有田中央高等学校 3-0  
2回戦 対 神島高等学校 1-3 **ベスト8**  
女子団体1回戦 対 星林高等学校 1-3 【オ-プン参加】



6月4日(日) **男子ダブルス**  
**浪江利貴(3D)・吉本柊斗(3E) ベスト32**  
2回戦 対 和歌山北高校 2-0 [21-19/21-9/-]  
3回戦 対 神島高校 1-2 [20-22/21-16/20-22]  
**榎本翔太(2D)・吉田伊吹(2D) ベスト32**  
1回戦 対 向陽高校 2-0 [21-7/21-9/-]  
2回戦 対 神島高校 2-1 [14-21/21-17/21-19]  
3回戦 対 耐久高校 0-2 [9-21/2-21/-]



6月4~6日 **男子シングルス**  
(日~火) **吉本柊斗(3E) ベスト16**  
1回戦 対 神島高校 2-0 [21-13/21-10/-]  
2回戦 対 紀央館高校 2-0 [21-7/21-9/-]  
3回戦 対 耐久高校 2-0 [21-13/21-12/-]  
4回戦 対 那賀高校 2-1 [22-20/15-21/21-12]  
5回戦 対 那賀高校 0-2 [7-21/7-21/-]



僕達の最後の総体予選会が終わりました。

昨年、先輩方は笑顔いっぱい総体予選会を終え、その高揚感のまま、世代交代することができました。その後、僕達は近畿大会にも出場することができ、少しずつレベルアップ・ステップアップしてきました。今回の総体予選会の抽選会が終わった後、トナウトを見ながら、団体戦ベスト4・ダブルスベスト8・シングルスベスト16を目標としながらも、1番の目標は、「試合を楽しみ、笑顔で終わること」としていました。

初日の団体戦…1回戦は順調に勝ち進み、2回戦…ベスト4という目標に向けてオ-ダ-を真剣に考え、挑みました。僕は第2ダブルスに後輩と組んで出ました。このダブルスに負ければチームの勝利はない、とてもプレッシャーのかかる試合でした。1-1で迎えたファイナル…最後まで諦めない気持ちでラリーをしましたが、負けてしまい、団体戦ベスト4という目標は達成することができませんでした。

2日目のダブルス戦…昨日の悔しい気持ちをバネに、今日こそはという気持ちで試合に臨みました。迎えた3回戦…対戦相手は昨日、団体戦で敗退した神島高校のペアです。熱い気持ちを持ちながらも、冷静にラリーをすることができ、1-1で迎えたファイナル…リードした時も、攻める気持ちを失わないように心がけました。しかし、少しずつ追いつかれてくるにつれて、気持ちに迷いが生じ、…勝ち切ることができませんでした。握手をして、コートを出た瞬間、悲しいとか悔しいとかを感じる前に、涙が止まりませんでした。喪失感が強すぎて、他の事は全く考えられませんでした。まだ、シングルスが残っている…一生懸命自分に言い聞かせ、気持ちを奮い立たせようと思いましたが、整理するには時間が短すぎました。でもここで折れてしまったら意味がないと、何度も何度も自分に言い聞かせながら、翌日の朝を迎えました。でも、シングルスゲームが始まると、今まで感じたことのない緊張感や恐怖心しか感じられませんでした。結果は自分の持っている力を全く発揮することはできず、僕の総体予選会は終わりました。

…何も達成できなかった。キャパシティなのに。後輩に良い姿を見せなければならないのに…本当に何もできなかった。自分が情けなくて、惨めで、罪悪感でいっぱいになりました。最後がこんな形で終わることになって、とにかく辛くて、本当に申し訳ない気持ちしか感じられませんでした。でも、僕のパートナーのシングルの試合はまだ残っている…。今はパートナーの試合のことだけ考えよう、悲しむのはそれが終わってからにしよう、僕なりに必死でパートナーを支えました。僕達は多くの言葉を交わす訳ではありませんでしたが、きっと僕の想いを感じてくれていたはず。パートナーにとって、シングルの大きな山場は4回戦でした。僕は必死で応援しました。本当に苦しいラリーばかりでしたが、見事勝ち切ってくれました。その瞬間、僕も救われた気持ちになり、パートナーに対して、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

総体予選会が終わり、多くの方が「結果ではない、よく頑張った」と声をかけてくれますが、正直、僕はまだその温かい言葉を受け入れる気持ちにはなれていません。やってきたことが無駄ではないこともわかっていますが、やはり結果に結びついていない以上、空虚感が強く、自分に対する自信も持てなくなっています。でも、これまで多くの方々を支えられ、今の僕達があることは十分分かっています。時間はかかると思いますが、ゆっくり整理をして、少しずつ前を向いていきたいと思っています。

今回、ずっと僕達の練習相手になってくれていた地域の方々をはじめ、鈴木教頭先生・橋本先生・先輩方も会場に応援に来て下さり、本当に自分達の力になりました。そして、これまで支えてくれた家族やチームの仲間、僕の大切な最高のパートナー…本当にありがとう。心から感謝しています。

バドミントン部 キャパティ 浪江 利貴